

第 25 期 事 業 報 告

(自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)

1 株式会社の現況に関する事項

1-1 事業の経過及び成果

平成29年度は、当社にとって4期目となります京都市との4年間の「京都市勸業館指定管理者協定」がスタートしました。これまでに蓄積してきた施設運営のノウハウ、地域連携の取組等を活かした経営計画、事業計画をその公募選定時に提案しており、社員一丸となって誠実に遂行しております。また、京都市勸業館開館20周年を記念して当社設立以来初めてとなる株主配当を実施いたしました。

しかしながら今期は、当社にとって厳しい年でもありました。京都市の方針により「京都館」が閉館されることとなったため、当社が同館で展開しておりました京都館事業は今限りで終了となり、東京支店を廃止するとともに、同事業に携わっていた社員も全員解雇せざるを得なくなりました。そのような中、本業である京都市勸業館の稼働率は近年では最高の成績となったものの、利用料収入がいまひとつ伸びを欠き、また、近隣に位置する京都市美術館が再整備のための一時休館に入ったことで、駐車場の利用料収入も昨年より10,303千円減少したため、会社全体の売上高は、昨年度より34,085千円減の903,598千円となりました。

当社の主要事業である京都市勸業館事業については、大型の学術会議が開催された他、これまで市美術館で開催されていた催事が当館で振替開催されるなど年間を通して好調に推移し、稼働率は55.12%となり、最大の目標としていた55%を上回ることができました。「多目的に利用できる施設だと知ってもらおう」取組の成果であるとともに、催事運営面のサポート体制を整え、「使いやすい施設だと思ってもらおう」取組についても評価をいただけたものと考えています。駐車場を含む施設利用料収入は昨年度より19,985千円減の632,978千円に止まりましたが、一昨年を大きく上回る実績を残すことができました。

京都伝統産業ふれあい館ミュージアムショップ事業については、商品売上高は51,814千円でほぼ昨年度と同様の実績となりましたが、外国人観光客等への周知を図ってきた免税の取扱いが好調で、免税売上高実績は昨年度より35%増加しました。

自主企画事業については、4回目の開催となった夏の定番イベント「電車王国inみやこめっせ」が過去最高の来場者を記録するなど、認知度の向上が実感できました。秋の「かがやきめっせ」は残念ながら台風の襲来により、1日間のみの開催となりましたが、冬の「ウィンターイルミネーション」はこれまでより大幅に電球数を増やすとともに、音楽を取り入れる新しい企画で実施し、好評を得ました。さらに、伝統産業の日の協賛事業として開催する「京ものフェスティバル」にも多くの方々にご来場いただきました。これらの事業を通じて、市民の豊かな生活の形成並びに地元岡崎地域の賑わいの創出に貢献できたと考えています。

京都館事業については、平成11年に赤坂から出発して平成18年に八重洲へ移転し、通

算18年余にわたり当社が運営してまいりました京都館の最後の営業年度となりました。再開発事業により周辺ビルに入居する事務所の撤退が相次ぐなか、3月上旬までの営業となったこともあり、商品売上は昨年度より10,218千円下回りました。しかしながら、長年の京都館ファンの方々に支えられて、目標予算まであと一歩と健闘いたしました。

費用面では、安心、快適な施設として京都市勧業館をご利用いただく方々の信頼に応えるため、これまでから施設の修繕、備品の充実に取り組んでおり、今期は共用スペースに敷設しているWi-Fiの増強を行いました。さらに、当館の魅力をより効果的に発信できるようにするため、ホームページのリニューアルを行いました。今期は、経年劣化の対応による修繕費の増加に加え、人件費の高騰による警備業務、設備運転管理業務等の契約の見直しにより、業務委託費が増加しましたが、経費の節減に努めた結果、販売費及び一般管理費全体ではほぼ昨年度と同様となりました。なお、京都館の閉館に伴う経費等15,707千円を特別損失に計上いたしました。

以上のことから、今期は、売上高の減少に伴い、売上原価も減少したものの、売上総利益は減少しました。また、販売費及び一般管理費は現状維持となったことから経常利益も減少しました。さらに、特別損失を計上したため、税引前当期純利益は昨年度を26,282千円下回りましたが、26,288千円を確保いたしました。

1-2 直前三事業年度の財産及び損益の状況

区 分	第22期	第23期	第24期	第25期 (当事業年度)
売上高	840,483 千円	851,518 千円	937,683 千円	903,598 千円
当期純利益	25,463 千円	17,626 千円	34,363 千円	19,456 千円
一株当たり当期純利益	14,146 円 58 銭	9,792 円 41 銭	19,090 円 70 銭	10,808 円 89 銭
純資産	446,590 千円	464,216 千円	498,580 千円	516,236 千円

1-3 当該事業年度における主要な事業内容

当社が現在行っている事業の主なものは、次のとおりです。

(1)京都市勧業館事業

展示場及びその付随施設、会議室、ギャラリーの貸出、展示会の企画運営サービス、
駐車場管理

(2)京都伝統産業ふれあい館ミュージアムショップ事業(「京紫苑」の運営)

伝統工芸品の販売

(3)自主企画事業

電車王国 in みやこめっせ、伝統産業の日 in みやこめっせ協賛事業・京ものフェスティ

バル及び桜まつり, かがやきめっせ(以上岡崎魅力づくり推進協議会コラボレーション事業)等の実施

(4)京都館事業

京都市受託事業の実施(京都館の運営, イベントの実施, 京都情報の発信等)及び京都産品の販売

1-4 当該事業年度の末日における主要な営業所及び使用人の状況

(1)主要な営業所

本店 京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

東京支店 東京都中央区八重洲二丁目1番1号 ヤンマー東京ビル1F

(2)使用人の状況

従業員数 (うち, 臨時社員数)	前事業年度末比増減
36人 (15人)	1人減

(注)従業員数には, 臨時社員を含んでいます。

2 株式に関する事項

2-1 株式数

(1)発行可能株式総数	4,000 株
(2)発行済株式の総数	1,800 株
(3)当事業年度末の株主数	9 名

2-2 株主及びその持株数

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
京都市	1,080	60.0
京都府	100	5.6
京都商工会議所	100	5.6
公益財団法人京都伝統産業交流センター	100	5.6
公益社団法人日本図案家協会	100	5.6
株式会社三菱東京UFJ銀行	90	5.0
株式会社京都銀行	90	5.0

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
京都信用金庫	80	4.4
京都中央信用金庫	60	3.3
合計	1,800	100.0